

- 問1 1467年に始まった応仁の乱について述べた文として、当時の社会状況と照らし合わせて最も適切なものはどれですか。 (2022年 福島県公立入試 類似)
1. 後醍醐天皇による建武の新政への不満が高まり、足利尊氏が武士の支持を集めて京都に新たな幕府を開くきっかけとなった。
 2. 将軍足利義政の継嗣問題や守護大名の対立から始まり、下の者が実力で上の者を倒す「下剋上」の風潮が広がるきっかけとなった。
 3. 北条氏の勢力拡大に対し、足利尊氏と弟の足利直義が対立したことで、幕府を二分する大規模な武力衝突へと発展した。
 4. 江戸幕府によるキリスト教禁止や重税に反対した農民たちが、天草四郎を首領として九州で大規模な一揆を起こした。
- 問2 室町時代に成立し、現代の和室の原型となった住宅様式を何といいますか。畳を床一面に敷き詰め、襖や障子で空間を仕切り、床の間や「書院」と呼ばれる机を設けることを特徴とします。 (2016年 岡山県公立入試 類似)
1. 唐造
 2. 書院造
 3. 合掌造
 4. 寝殿造
- 問3 室町時代、農村では有力な農民を中心に「惣(惣村)」と呼ばれる自治組織が作られました。この組織が行っていた活動やその特徴について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 長野県公立入試 類似)
1. 用水の管理や共同作業のための独自のルール(掟)を定め、寄合を開いて村の運営を自律的に行った。
 2. 将軍の代わりごとに、朝廷に対して忠誠を誓う儀式を村単位で主催し、幕府の地方支配を補佐した。
 3. 有力な武士の屋敷の周辺に集まり、城下町の原型となる市場を形成して、領主の許可なく自由貿易を行った。
 4. 朝廷から派遣された国司の指導のもとで、墾田永年私財法に基づいた土地の開墾を組織的に進めた。
- 問4 中世の経済活動について述べた文章において、寺社の門前などで定期市が盛んに開かれるようになった背景や状況を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2019年 秋田県公立入試 類似)
1. 問丸と呼ばれる運送業者が、特定の寺社の門前でのみ商品を販売する独占権を得た。
 2. 農業技術の向上で余剰産品が生まれたことにより、物資を交換・販売する場が必要になった。
 3. 座と呼ばれる同業者組合が、一般の農民が市場を開くことを寺社の境内に限定した。
 4. 幕府が貨幣の使用を禁止したため、各地の寺社の門前で物々交換を強制的に行わせた。
- 問5 室町時代、近畿地方などの先進地域を中心に、農民たちが自衛や村の運営のために結成した自治組織を何といいますか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)
1. 惣
 2. 五人組
 3. 株仲間
 4. 座
- 問6 室町時代の陸上輸送において、馬の背に荷物を載せて運んだ運送業者は、その組織力を背景にしばしば徳政一揆の中心となりました。この運送業者を何と呼びますか。 (2026年 京都府公立入試 類似)
1. 座
 2. 惣村
 3. 馬借
 4. 問
- 問7 室町時代に農村で成立した、農民たちによる自治組織を何と呼びますか。村の有力者たちが「寄り合い」と呼ばれる会議を開き、自分たちで決めた「村の掟」に基づいて運営された組織の名称を答えなさい。 (2026年 沖縄県公立入試 類似)
1. 株仲間
 2. 惣村
 3. 座
 4. 五人組
- 問8 鎌倉幕府の滅亡後、後醍醐天皇が始めた「建武の新政」が短期間で失敗に終わり、武士の不満を背景に新たな幕府が成立するまでの経緯について、正しい説明を選んでください。 (2017年 岐阜県公立入試 類似)
1. 農民にすべての土地所有権を与える改革を行ったことで地主層が反乱を起こし、徳川家康が江戸に幕府を開いて事態を収拾した。
 2. キリスト教を保護しすぎたことが仏教勢力の怒りを買い、織田信長が比叡山を焼き討ちにしたのち、後醍醐天皇に代わって全国を統一した。
 3. 後醍醐天皇が実力主義の武士を重用しすぎたため、伝統を重んじる公家が反発し、平清盛が天皇を追放して政権を握った。
 4. 後醍醐天皇が公家を優遇する政治を行ったため、武士たちの間に不満が広まり、足利尊氏が武士の支持を集めて京都に新たな幕府を開いた。
- 問9 室町時代に足利義満によって整えられた日明貿易の形態について述べた文として、正しいものはどれですか。なお、この貿易では「勘合」と呼ばれる、文字が書かれた札を二分割した証明書が使用されました。 (2017年 神奈川県公立入試 類似)
1. 平清盛が主導して行われ、大輪田泊を整備して大量の宋銭を輸入した貿易であった。
 2. 有力な大名や商人が、幕府の発行する朱印状を携えて東南アジア諸国に行った貿易であった。
 3. 足利義満が明の皇帝に対して臣下の札をとることで成立した、朝貢という形式の貿易であった。
 4. 徳川家康が長崎の出島にオランダ商館を移し、幕府が独占的に管理した貿易であった。
- 問10 室町時代に全国へと普及した、一年の間に同じ田畑で米と麦のように異なる作物を交互に栽培する農法を何と呼ぶか、最も適切なものを選びなさい。 (2022年 岐阜県公立入試 類似)
1. 転作
 2. 二毛作
 3. 二期作
 4. 輪作
- 問11 室町時代、京都などの都市部で酒造業を営む傍ら、質入れを受けて高利貸しを行い、莫大な利益を上げていた業者を何と呼びますか。幕府の重要な財源として保護を受けていた業者を組み合わせで答えなさい。 (2026年 長野県公立入試 類似)
1. 問屋・座
 2. 守護・地頭
 3. 惣村・寄合
 4. 酒屋・土倉
- 問12 足利義政が建立した慈照寺(銀閣)の同仁斎にも用いられた、畳を敷き詰め、床の間や違い棚などを設ける建築様式を何といいますか。現代の日本住宅における「和室」の原型となった名称を選択してください。 (2015年 大分県公立入試 類似)
1. 武家造
 2. 寝殿造
 3. 合掌造
 4. 書院造
- 問13 室町時代、北陸地方と京都を結ぶ交通の要衝であった近江国(現在の滋賀県)などを拠点とし、馬の背に荷物を載せて物資を運んだ運送業者を何と呼びますか。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
1. 問丸
 2. 座
 3. 町衆
 4. 馬借
- 問14 「南無阿弥陀仏」と記された旗を掲げ、信仰のもとに団結した浄土真宗の信者たちが、加賀国(石川県)などで守護大名を追い出した後に行った活動として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 滋賀県公立入試 類似)
1. 幕府から正式に任命された新しい守護大名を外部から招き入れた。
 2. 農民や地侍らが中心となり、自分たちの力で地域を治める自治を行った。
 3. 座禅によって精神を統一し、武士の心構えを説く新たな宗教を広めた。
 4. 法華宗の信者と協力して、京都の町衆による政治組織を結成した。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 将軍足利義政の継嗣問題や守護大名の対立から始まり、下の者が実力で上の者を倒す「下剋上」の風潮が広まるきっかけとなった。	応仁の乱は室町幕府の衰退を決定づけた出来事です。8代将軍・足利義政の後継者争いに加え、細川氏（東軍）と山名氏（西軍）という有力な守護大名の権力争いが重なり、11年にわたる戦乱となりました。この戦いにより幕府の権威は失墜し、身分の低い者が実力で上位の者を圧倒する「下剋上」の動きが加速し、戦国時代へと移行する大きな転換点となりました。
問2	答え 2 書院造	室町時代に武士の生活習慣が変化する中で、それまでの貴族的な様式に代わって定着したスタイルです。僧侶や武士が書物を読んだり客を接待したりするための空間として発展しました。畳・障子・襖といった要素は、現在の日本の住宅様式にも大きな影響を与えています。
問3	答え 1 用水の管理や共同作業のための独自のルール（掟）を定め、寄合を開いて村の運営を自律的に行った。	室町時代の農村では、農業生産力の向上に伴い、水利権の調整や入会地（山林）の管理、さらに防犯などの必要性から、農民たちが団結して「惣」という組織を作りました。彼らは「寄合」と呼ばれる会議を通じて「掟」という独自の村の法律を定め、違反者を罰するなど、領主の支配とは別に自律的な村の運営を行いました。
問4	答え 2 農業技術の向上で余剰産品が生まれたことにより、物資を交換・販売する場が必要になった。	鎌倉時代以降、二毛作の普及や牛馬の利用、肥料の改善などによって農業の生産力が向上しました。これにより、農民が自分たちで消費する分以上の産物（余剰産品）を持つようになり、それを売買・交換するために、寺社の門前といった交通の利便性が高い場所で市場が発展しました。
問5	答え 1 惣	室町時代になると農業技術の向上によって農民の地位が高まり、自分たちで村を運営する「惣（惣村）」が作られました。これに対し、「五人組」は江戸時代の幕領などで組織された連帯責任の制度であり、「座」や「株仲間」は商工業者の同業者組織を指します。
問6	答え 3 馬借	陸上交通の要所で活躍した「馬借」は、多くの馬と人員を組織して物資を運んでいました。彼らは物流のネットワークを通じて強い団結力を持っていたため、幕府に対して借金の帳消し（徳政）を求める一揆が起きた際には、その行動力を活かして中心的な役割を果たすことがありました。座は商工業者の同業者組合、惣村は農民による自治組織を指します。
問7	答え 2 惣村	室町時代になると、農民が自衛や用水の管理のために結束を強め、惣村（そうそん）と呼ばれる自治組織を形成しました。村の運営方針は「寄り合い」で話し合われ、独自のルールである「村の掟」を定めることで、領主に対抗したり村の秩序を維持したりしました。選択肢にある「五人組」は江戸時代に幕府が民衆を統制するために設けた制度であり、自治組織である惣村とは性質が異なります。
問8	答え 4 後醍醐天皇が公家を優遇する政治を行ったため、武士たちの間に不満が広まり、足利尊氏が武士の支持を集めて京都に新たな幕府を開いた。	鎌倉幕府を倒した後醍醐天皇は、天皇自らが政治を行う「建武の新政」を開始しました。しかし、この政治は公家を極端に優遇し、倒幕に貢献した武士への恩賞や土地の権利を軽視するものであったため、武士の間に強い不満がたまりました。その不満を背景に、武士のリーダーとして立ち上がったのが足利尊氏です。彼は後醍醐天皇に反旗を翻して京都を制圧し、光明天皇を立てて征夷大将軍となり、室町幕府の基礎を築きました。
問9	答え 3 足利義満が明の皇帝に対して臣下の礼をとることで成立した、朝貢という形式の貿易であった。	足利義満は、明との正式な貿易を行うため、明の皇帝から「日本国王」という称号を授かりました。これは中国の皇帝に貢物を捧げる「朝貢（ちょうこう）」という外交形式であり、これにより室町幕府は莫大な利益を得るとともに、国内での権威を高めました。他の選択肢は、平清盛による日宋貿易、江戸時代の長崎貿易、江戸時代初期の朱印船貿易の説明です。
問10	答え 2 二毛作	鎌倉時代に西日本から始まり、室町時代に全国へと広がったこの農法は、夏に米を、冬に麦を栽培する形式が一般的です。一年に同じ作物を2回収穫する「二期作」とは、栽培する作物の種類が異なる点で区別されます。
問11	答え 4 酒屋・土倉	室町時代、貨幣経済の浸透に伴い、醸造業を営む「酒屋」や質屋である「土倉」が、蓄えた資本を元手に高利貸しとして成長しました。室町幕府は彼らに「酒屋役」や「倉役」などの税を課す代わりに、その営業を保護し、幕府の財政基盤として利用しました。
問12	答え 4 書院造	慈照寺の銀閣などに見られる東山文化の代表的な建築様式が書院造です。平安時代の貴族の住宅様式である寝殿造とは異なり、床に畳を敷き詰め、ふすまで部屋を仕切り、床の間や付け書院を設けるといった特徴があります。この様式は武士の生活様式として定着し、私たちが今日目にする伝統的な和室のデザインに直接つながっています。
問13	答え 4 馬借	室町時代には農業や手工業の発展に伴い、商品流通が活発になりました。特に近江国の大津や坂本は、琵琶湖の水運と陸上交通を繋ぐ拠点として栄え、ここで馬を利用して荷物を運んだ専門の運送業者が馬借です。彼らは単なる輸送だけでなく、後に徳政（借金の帳消し）を求める一揆の先導役となるなど、社会的に大きな影響力を持ちました。
問14	答え 2 農民や地侍らが中心となり、自分たちの力で地域を治める自治を行った。	一向一揆の大きな特徴は、信仰によって結ばれた人々が守護大名を倒し、約100年間にわたって自ら地域を管理する「自治」を実現した点にあります。これは、武士の支配に抗って民衆が社会を動かした室町時代の社会変化を象徴する出来事です。